

## 5-1 新城市における地域公共交通活性化・再生総合事業

### 新城市地域公共交通総合連携計画の目標

住民にとって利便性が高く、かつ効率的な運行を作り上げるため、6つのポイントを掲げ着実に実行する。改善を繰り返し、住民に親しまれ、住民が支え、住民にとって便利な公共交通網を構築する。

### 目標達成のための6つのポイント

#### 運行形態・路線網の検討

地域の実情に合わせた運行形態の採用と、路線網に合わせた乗り継ぎの円滑化

#### バス関連施設の整備

バス停、乗継拠点、運行案内板など、バス関連施設の計画的整備

#### ニーズの把握と反映

乗降調査やアンケートによる利用者ニーズの把握と、運行への反映

#### 地域・利用者の参画

地域住民及び利用者が、運行計画策定や見直しに参画できる仕組みづくり

#### 利用しやすい料金体系

市営バス料金の統一と、民間バス路線との協議による利用しやすい料金体系の構築

#### 積極的な情報提供

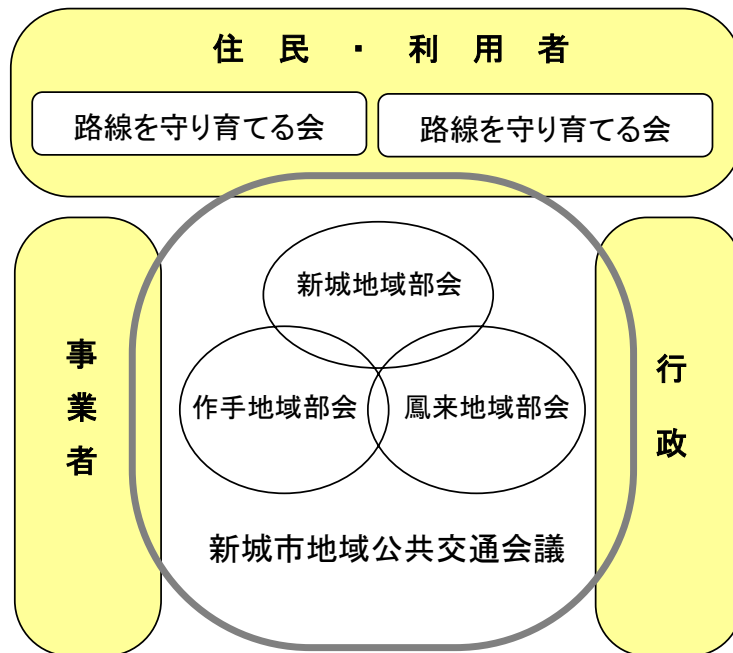
鉄道及びバス路線に関するパンフレットの作成など、積極的な情報提供

### 新城市地域公共交通活性化協議会

バス利用者代表・学識経験者・愛知県バス協会・豊鉄バス(株)・豊鉄タクシー(株)・豊橋鉄道労働組合・老人クラブ代表・小中学校PTA代表・中部運輸局・愛知県・愛知県警察・新城市

【事務局】新城市企画課内 0536-23-7620

### 新公共交通システム支援のための組織図



## 20年度事業の実施状況

### 1. 事業の内容

#### 1) 実証運行

- 作手線 (H20. 4. 1~H23. 3. 31)  
運行区間 新城東高校~高里(22. 1km)  
運行本数 1日 1往復  
運賃 160円~860円  
運行事業者 豊鉄バス株式会社
- つくであしががる線 (H20. 4. 1~H23. 3. 31)  
運行区間 月曜ルート~土曜ルート  
運行本数 1日4往復  
運賃 200円均一(大人)  
運行事業者 新城市
- 西部線 (H20. 7. 1~H23. 3. 31)  
運行区間 川田原公民館~新城東高校  
(往路9. 6km 復路9. 2km)  
運行本数 1日6往復  
運賃 200円均一(大人)  
運行事業者 豊鉄タクシー株式会社
- 塩瀬線 (H20. 10. 1~H23. 3. 31)  
運行区間 上島田~大海駅  
(22. 3km(只持ルート:22. 2km))  
運行本数 大海方面5便 上島田方面6便  
運賃 200円均一(大人)  
運行事業者 新城市

### 2) 車両のラッピング

バス利用を促すための取り組みとして、地元中学生及び小学生の描いた絵をデザインした、ラッピングバスを導入。



作手地域中学生の絵をラッピング

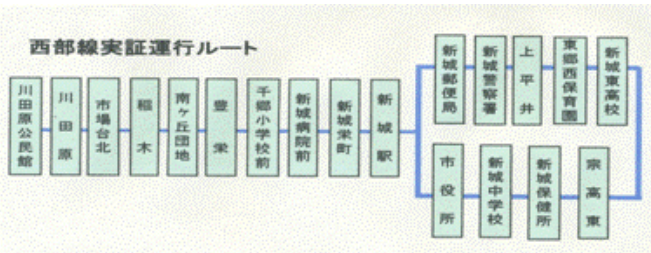
作手地域小学生の絵をラッピング

### 3) パンフレット作成

JR飯田線やバス運行をPRするため、パンフレットを作成した。

### 4) 共通回数券の発行

バス利用者の利便性向上と利用促進を目指し、Sバスに共通の回数乗車券を新たに発行した。



Sバス回数乗車券

## 2. プロセス・創意工夫

- バス利用者・バス事業者・地域住民による公共交通研究会により、新公共交通システムを検討。
- バス運行のPRとバスへの愛着を醸成するため、地域の小中学生が描いた絵をデザインしたラッピングバスを導入。
- 利用者及び地域の意見を積極的に取り入れるため、公共交通会議の下部組織として地域部会を設置。
- 利用者の利便を向上させ、乗り継ぎを容易にする取り組みとして、共通回数券を導入。
- 運行路線を地域のバスとして守り、そして育てるための仕組みとして、路線ごとに「守り育てる会」を設置。



守り育てる会

## 3. 事業費等(単位千円)

■総事業費 20,489	●運賃収入	2,415
	●地域負担	
	・市負担金	9,971
	●総合事業費補助金	8,103

## 4. 利用実績

【実証運行路線の月別利用者数】

	作手線増便	つくであしがる線	西部線	塩瀬線
4月	54人	83人	—	—
5月	240人	84人	—	—
6月	126人	110人	—	—
7月	374人	103人	287人	—
8月	166人	83人	266人	—
9月	95人	98人	298人	—
10月	224人	113人	292人	509人
11月	63人	138人	247人	391人
12月	244人	84人	238人	434人
1月	67人	78人	237人	401人
2月	284人	79人	223人	429人
3月	198人	117人	264人	378人
計	2,135人	1,199人	2,352人	2,542人

## 5. 事業実施効果

- 交通空白地域にバスを実証運行することにより、当該地域の住民に、移動手段を提供できた。
- 共通回数券の発行により、利便性が向上しバス利用者を増やすことができた。
- 利用状況の調査及び地域住民の意見を反映し、バス路線を見直した結果、効率の良いバス運行となった。
- 地域・路線ごとにバス運行を協議する組織を設置したことで、利用者意見の把握と反映が可能となった。

## 6. 今後の課題

- バス待合施設の計画的整備
- バス運行情報のさらなる提供
- 利用者の少ない路線の利用促進への取り組み
- 利用者意見の把握と反映の継続

### 21・22年度の事業予定

- 市営バス実証運行……………21年度・22年度
- コミュニティバス実証運行 ……21年度・22年度
- ラッピングバス導入……………21年度・22年度
- Sバス料金統一……………22年度
- バス停整備 ……………22年度

実証運行路線図

